

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒の個性に応じた教育の展開を図り、将来を展望した魅力ある学校づくりに努める。 (2) 「自彊不息」の校訓のもと、「生きる力」を身に付けた生徒の育成に努める。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・職業人として必要な倫理観や他者を思いやる心を身に付けた生徒 ・ビジネスマナーやコミュニケーション能力を身に付け、自ら学び、考え表現できる生徒 ・基礎学力の定着を図るとともに、ビジネスに関する確かな知識・技術を身に付け、地域の資源や特徴を理解し、グローバルな視点で異文化理解、異文化交流に取り組むことのできる生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・市岐商デパート、販売実習やインターンシップ等の体験学習などを通して、望ましい勤労観や職業観の育成するための教育課程を編成 ・身に付けた知識・技術・態度により自ら課題を設定し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成 ・目標に向かい、自ら励まし、継続して努力し続ける生徒に対するきめ細やかな粘り強い支援の実施	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・基本的な生活習慣や規範意識等が身に付いている生徒 ・商業の専門分野に関する興味・関心があり、資格取得に意欲的に取り組む生徒 ・部活動や生徒会活動、地域の活動等に積極的に取り組む生徒 ・他者を認め尊重し、自ら考え行動する人間力の向上を目指す生徒

3 評価する領域・分野	◇教務部	
4 現状の分析	◇学習面では評価の仕方や習熟度・少人数指導の学習支援の項目において生徒の80%以上が肯定的な評価であった。 ▲本校の施設・設備が学習環境の面で満足できるかについては60%台に留まった。	
5 学校の抱える課題	・本校の施設・設備の経年劣化が進んでいる箇所がある。 ・生徒の多様な進路実現のため教育課程の見直し継続が必要である。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・家庭との連携におけるICTの効果的な活用 ・教育課程の見直し	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 家庭との連絡手段のICT化 (2) 教育課程の見直し（商業科目の充実）	(1) 連絡手段にMicrosoft Formsを活用しているか (2) 幅広い進路に対応した教育課程になっているか	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・Microsoft Formsを活用した連絡手段の確立 ・グローバルマネジメントコースの教育課程を見直し、商業科目の充実を図った。	①Microsoft Formsを活用して出欠等の連絡がされているか。 ②商業高校の生徒として幅広い進路選択ができる教育課程になっているか。	(A) B C D A (B) C D
12 成果課題	○出欠等の連絡手段のICT化では時間を問わず連絡できるようになったことで利便性が向上し、多くの保護者に利用された。朝の管理当番業務を廃止することができ、働き方改革にもつながった。 ・○グローバルマネジメントコースの商業科目を充実したことで、商業系への進路選択の幅が広がった。 ▲為替や物価高騰の影響により、グローバルマネジメントコースの中国研修を実現することができなかった。	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・生徒の進路希望に即した教育課程の見直しを推進する。 ・家計の負担や生徒の希望を踏まえ、研修旅行の見直しをおこなう。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状分析から概ね成果につながっているが、学習環境において満足していない生徒たちが存在していることから整備に努めてほしい。 ・ICTの効率的な活用について成果があらわれており、今後も積極的に推進してほしい。 ・将来、幅広い進路選択ができるような取組みをお願いしたい。
--

3 評価する領域・分野	◇生徒指導部（教育相談）	
4 現状の分析	○本校生徒の身だしなみやマナーについて、保護者や地域から肯定的な評価を得ている。 ▲いじめや情報モラル等の問題行動が複数件発生した。	
5 学校の抱える課題	◇交通事故防止。交通ルールや交通マナーの遵守。ヘルメット着用の推進。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立（挨拶、身だしなみ、遅刻防止） ・地域密接意識の育成（挨拶、身だしなみ、公共マナー、法令遵守） ・人権意識の醸成（いじめ対策、情報モラル） 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 日常的なマナー指導（挨拶、言葉遣い、身だしなみ指導） (2) 交通安全・薬物・情報モラル・人権講話 (3) 迷惑調査、教育相談、スクールカウンセラー (4) 人権について考える日（OneUnityの日） (5) 集会等での呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 身だしなみ指導の実施と振り返り (2) 保護者の感想（学校アンケート） (3) 查の実施と対応 (4) 談、三者懇談による対応 (5) ネットパトロールからの報告 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に身だしなみ指導を行った。また、登校時や学校生活においても声を掛け意識させた。 ・毎月最初の登校日を「OneUnityの日」とし、周りの人に対する日頃の言動を見直すなど、人権意識の啓発を行った。 ・迷惑調査等で得られた情報をもとに生徒から聞き取りを行い対応した。教育相談や三者懇談等でその後の経過観察を行い、再発防止に努めた。 ・外部講師による講話（交通安全、情報モラル、薬物乱用防止、人権）で意識啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ①職員が共通理解のもと足並みをそろえた取り組み ②迷惑調査で発覚した迷惑行為（いじめを含む）の改善 ③交通事故件数及び問題行動発生件数の減少 ④情報モラル意識の高揚 	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の呼びかけから、生徒の身だしなみも落ち着き、挨拶も定着した。 ○迷惑調査において情報のあった生徒に対して速やかに対応して、解決・改善させることができた。 ・▲今年度は情報モラル違反や授業・考査規律違反などの特別指導が増加した。 ▲交通事故は昨年度より増加している。（今年度17件〈3件増〉） ▲校則について、社会の流れや学校の実情に合った見直しを進めていきたい。 	
13 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・よりきめ細かい声掛けや、講話の精選等を行い、生徒の深く意識させられるような指導で、問題行動の抑止をしていく。 ・交通安全意識の向上と、ヘルメットの着用推進のために、新たな取り組みを考えていく。 ・校則の見直しについて、ビジネスマナーに則した改革を進めていく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に情報モラルについて指導してほしい。 ・自転車のヘルメット着用について、全校生徒の着用率をあげる方策を検討してほしい。 ・校則の見直しについては、委員会等を設置し定期的に生徒と一緒に考えていく体制と組織づくりを検討してほしい。
--

3 評価する領域・分野	◇進路指導部	
4 現状の分析	○進路情報の提供について、生徒の89%、保護者の74%が肯定的な評価である ○生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導について、生徒の88%、保護者の77%が肯定的な評価である。 ▲保護者の視点では、進路情報の提供について9%程度、進路指導について5%程度、不足しているとの評価であるため、積極的な情報提供を行う。	
5 学校の抱える課題	◇目的意識がなく、なんとなく進路を決定する生徒や、進路先研究が不足している生徒がいる。生徒が主体的に積極的な進路選択ができるようにする必要がある。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人ひとりが自己を正しく理解し、それぞれの目標を見いだした上で、具体的に分析・研究・体験をし、進路実現ができるようにする。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 企業との情報交換 (2) 外部講師の活用 (3) 各種進路行事	(1) 3年生全員の進路先決定 (2) 生徒自身が志望する進路実現	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・就職希望者の志望先企業へ訪問し、情報交換を行った。また求人票の公開を、HRでのコピーの他、タブレットを活用して行った。 ・外部講師を招聘し、志望理由書の書き方についての講座を開催した。 ・三者懇談中の午後に2年生の全員と1年生の希望者を対象に、分野別説明会を実施した。	①就職希望者内定 ②進学希望者合格 ③1・2年からの進路意識の醸成	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果 課題	○3年生の進学希望の生徒の中に進路未決定の生徒が複数いるが、大多数の生徒は希望する進路先に進路先を決定することができた。 ○就職希望者が企業研究を行うことができた。また、就職試験に向けてや社会人になることなどに対してなど、意識づけをすることができた。 ▲進学希望者の中には、進学する目的や将来の目標が定まっておらず、進学先に提出する志望理由書が書けない生徒が多い。進学することへの目的意識と、自己の進学先に対する研究が必要である。	総合評価 A (B) C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・7月、12月の三者懇談期間中の進路先説明会について、有意義な時間となるよう実施方法を継続して検討していく。 ・出願願の提出時に、志望理由書の提出も求めることを継続する。 ・進学希望者の指定校推薦について選考方法を新基準で実施し、次回改定に向けて課題や問題点を洗い出す。 ・大学や専門学校の模擬授業を実施することにより、進学後の学びについての理解を深め、目的意識を持つ機会を設ける。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】 ・進路意識を向上させるために、1年次など早い時期からインターンシップやオープンキャンパスに参加させるとよい。 ・進路目標を明確にするためにも、二者懇談や三者懇談を充実させてほしい。
--

3 評価する領域・分野	◇特別活動部	
4 現状の分析	<p>○「学校行事が充実している」への回答に、コロナウイルス感染性が5類移行したため、ほぼ行事は実施できた。肯定的意見が7割強と昨年度と同様であった。また部活動においては約9割が肯定的な意見で昨年度と同様であった。</p> <p>▲「学校の施設・設備は、学習環境の面でほぼ満足できる」の回答が、保護者、生徒ともに6割強であり、昨年度よりも1割程度肯定的な回答が減った。</p>	
5 学校の抱える課題	◇部活動は全員加入ではないが、より多くの生徒が部活動に参加できるようにしたい。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自主性や創造力を発揮できる活動の場の拡大を目指す。 ・部活動の更なる活性化を図る。 ・生徒の実態を把握し、生徒会活動を充実させる。 ・ボランティア活動、地域行事について全校体制で積極的に参加する。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 重要議題について生徒議会を開催し、全校生徒の問題意識や帰属意識の向上を図る。</p> <p>(2) 部活動全員加入ではないが、1年生対象の部活動紹介を工夫して各部の魅力を伝え、更なる部活動の活性化を図る。</p> <p>(3) 執行部が学校行事や校則改訂の検討を行う。</p> <p>(4) ボランティア活動に対する啓蒙活動と地域行事への参加を生徒全体に呼びかける。</p>	<p>(1) 学校行事・生徒会行事における生徒の参加の仕方、執行部会・各種専門委員会の年間反省</p> <p>(2) 各部活動の活動状況及び実績</p> <p>(3) 行事後のアンケート及び校則改訂</p> <p>(4) ボランティア活動・地域行事への取組状況</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の統廃合について、卓球部、女子バレー部を令和5年度新入生から募集停止したが、残った部員で大会に出場できている。 ・定期的に執行部会を行い、当面の活動を理解しながら内容を検討し積極的に活動できた。 ・今年度は、ボランティア活動に多く参加できた。信長まつり、児童美術展、虻だこ揚げや論田川清掃は年3回参加できた。 	<p>①生徒が自主性・創造性を発揮できる場面があり、満足感を得ることが出来る。</p> <p>②部活動が活性化し、より多くの生徒が部活動を通して生き生きと活動する姿が見られる。</p> <p>③学校行事や委員会活動に対する意識が高まり、生徒から新たな要望が出てくるようになる。</p> <p>④地域の行事に積極的に参加する姿が見られるようになる。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果課題	<p>○4年ぶりに球技大会を全校一斉に開催できた。学校行事として全員が各競技に取り組み、盛り上がった。綱引き大会も4年ぶりに開催できた。</p> <p>○生徒主体の生徒会活動を積極的に行うことができた。</p> <p>○コロナ禍のなか各部の活動が制限される場面もあったが、地道な活動を続け、各大会で活躍した。今後もより生徒が目標達成に向けて活動できるような環境づくりをしていく必要がある。</p> <p>▲ボランティア活動に参加する機会が多い。参加する生徒が、生徒会と一部の部活動の生徒に偏っているため、多くの生徒が参加できるようにしたい。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ・考査1週間前からテスト勉強に集中できるように、部活動の時間を区切ってメリハリをつけるようにする。勉強と部活動の両立ができる環境を整える。 ・生徒自らが課題を見つけて自分たちの力で実践し、また新たな活動を創造していくことは大変難しいことであるが、我々教師が生徒へさらに働き掛け、少しずつでも前進させたい。 ・ボランティア活動を全校生徒に周知し、参加の呼びかけを強化する。 ・安全面に十分配慮して、部活動の活性化を更に進めていきたい。施設面などの充実も計画的に行う。 ・「学業」と「部活動」を学校生活の柱として、生徒がより意欲的に取り組めるよう、教員側も指導者のスキル向上に努める。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活発な部活動が多く、対外的に真摯な生徒の姿がととてもすばらしい。 ・高校生活の中で部活動を通して得られるものが多いため、一人でも多くの生徒が参加できる環境づくりに取組んでほしい。 ・ボランティア活動に多くの生徒に参加してもらうには、活動の意義や目的を広く周知できるとよい。
--

3 評価する領域・分野	◇保健厚生部	
4 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に関する指導は、生徒・保護者とも8割強の高い数値で評価されている。 ・地震や台風などの対応についても、生徒・保護者の周知が進み、約9割に迫る高評価が生徒・保護者から得られた。これらはホームページや、すぐメールでの連絡が行き届いているためと考えられる。 ・清掃に関しては約6割弱の生徒が行き届いていると評価したが、この数値は前年度より低下した。施設設備と関連して、校舎自体が老朽化している点が大きく上げられるとかがえられる。 	
5 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する基本的な知識や習慣を身に付けさせ、生涯を通じて健康な生活を営むことができる能力を育てる。 ・心身共にバランスのとれた人間の育成を目標として健康教育の推進に努める。 ・安全に留意し、危険防止に努め、緊急時や災害時に適切な行動が取れる態度を育成する。 	
6 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルに基づいた全職員による組織体制 ・保健主事、養護教諭、クラス担任、保護者の連携体制 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健主事、養護教諭、担任、学年主任の連携強化 (2) 危機管理マニュアルの周知徹底、職員研修会の実施 (3) 委員会活動の活性化 (4) 全職員・生徒による命を守る訓練(年3回実施) 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 保健室の利用者の数や内容 (2) 非常変災時に対する学校の対応と生徒および職員の行動についての周知徹底の向上 (3) 保健委員会・美化委員会の日常的な活動と、啓発活動の活性化 (4) 避難訓練で集合形式で避難の重要性を4年ぶりに促すことができた。 	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・悩みを抱えている生徒について、相談室、保健室、担任、生徒指導が連携して対処する。保健室利用者数は昨年度よりも多くなっているが、真摯に対応できている。 ・急な学級閉鎖など、途中での帰宅を余儀なくされた時の生徒の帰宅確認を実施した。 ・保健だよりに加えて、予防や注意喚起など、適時に実施する。また、校内放送で教員から生徒に直接呼び掛ける。 ・生徒に予告なしで命を守る訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の健康に関心があり、行動が伴っているか。健康診断の受診勧告に対する受診率。 ②帰着確認のできた割合。 ③コロナ等の各種感染症を未然に防ぐため、良いタイミングと内容で注意喚起出来ているか。 ④命を守る訓練を体験して、防災意識が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> (A) B C D A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11 成果課題	<ul style="list-style-type: none"> ○校内における健康に関する取り組みは学校保健安全法に則り滞りなく行えた。 ○校内の環境整備は校務員の多大な尽力もあり向上した。美化についてはもう一つレベルを上げていきたい。 ○命を守る訓練は年間3回実施し防災意識の向上を図った。3回とも予告なしで行った。訓練のシチュエーションを変化させることで、防災意識の高揚が図れた。全校一斉の避難訓練ができたことにより、より防災意識は高まった。 ○安全点検を毎月実施することで、職員の安全意識が高まった。 ○コロナが5類移行となり、インフルエンザ等による学級閉鎖が多かった。基本的な感染症対策を継続していく必要がある。 	<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>

12 来年度に向けての改善方策案

- ・各種感染症対策を徹底し感染リスクを抑えた学校運営を目指す。
- ・生徒が生徒自身の体調をしっかりと言語化できるようにさせたい。
- ・体調不良者が12月の修学旅行明けに急増した。のどの痛み、悪寒、咳き込むような症状の生徒の登校は校内にすぐに蔓延していくため、早期に発見し、自宅療養させたい。
- ・清掃の時間を中心に校内環境美化をさらに向上させたい。
- ・命を守る訓練を継続実施し、防災意識の高揚を図りたい。
- ・校内安全点検をもとに、不良箇所の修繕に迅速に取り組みたい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

- ・インフルエンザによる学級閉鎖が多かったため、生徒の免疫力を上げる方策を検討してほしい。
- ・校内での危機管理はできている。生徒が自宅のある各地域で災害に見舞われた場合に、地域の方々と迅速な対応ができるようになるとうい。
- ・生徒が、地域の防災訓練にも積極的に参加できるよう啓発してほしい。
- ・地震の際にスリッパでは避難が遅れる可能性が高いため、上履きの導入を検討してほしい。

3 評価する領域・分野	◇渉外部	
4 現状の分析	○P T Aや部活動振興会等の徴収金について、その予算や決算、経費の執行内容を詳細に公表されているとの評価をいただいた。(全体の87.1%) ○一斉配信メールサービスは有効に活用されている。(全体の93.4%)	
5 学校の抱える課題	◇市岐商デパートを企画・運営することで、保護者との連携を図る。 ◇総会や生徒保護者にアンケートを実施することで、P T A会員相互の連携を図る。 ◇生徒・保護者にメールの登録をお願い(登録徹底)し、生徒・保護者との連携を密に行う。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・本部役員会の開催 ・P T A常任委員会(事業、広報、部活動振興会)の定期的開催	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 市岐商デパートの飲食部門を開催する。 (2) P T A総会を開催する。 (3) 保護者へメール登録依頼・配信を行い、情報を提供する。	(1) 市岐商デパート飲食部門での売り上げ実績 (2) P T A総会、各種研修会の参加人数 (3) 保護者の登録件数と学校からの配信回数	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・市岐商デパートおよび、古本回収を実施した。 ・P T A総会(書面表決)を実施した。 ・3月に旅立ちを迎える卒業生を祝福するための立て看板を設置する。 ・メール登録を呼びかけると共に、学校から種々の情報を配信した。	①保護者の協力を得られたか。 ②学校・保護者との連携が図れたか。 ③生徒に喜んでもらったか。 ⑤全校生徒の保護者が登録してもらえたか。	A (B) C D A (B) C D (A) B C D (A) B C D
12 成果 課題	○今年度は、4年ぶりに市岐商デパートが対面販売となり、飲食部門が実施できた。 ○今年度から古本回収を冬の三者懇談時に定期開催することが決まり、文書メールで協力の呼びかけを行い、保護者の協力が得られた。 ○メール登録を保護者・生徒に必ず登録してもらえよう職員が協力して登録してもらえた。 ▲常任委員会が思うように開催できず、意見調整が難しかった。	
13 来年度に向けての改善方策案		総合評価 A (B) C D
<ul style="list-style-type: none"> ・P T A、学校からの連絡としてメール配信を上手に活用し、生徒の学校生活が把握できるよう配信していく。 ・他の分掌とも情報を共有し、ホームページと共に情報伝達の媒体の一つとして、定期的に保護者へのメール配信を実施する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市岐商デパート、PTA総会など、保護者との良い関係性を保ちながら、生徒の育成のために努力されている。 ・今後も、保護者との連携を強化していく方策を検討してほしい。

3 評価する領域・分野	◇図書・視聴覚部	
4 現状の分析	○図書委員会を中心とした図書貸出・返却、整理ができている。 ▲高校生の読書離れが叫ばれているが、本校においても年2回（図書オリエンテーション、読書感想文前）以外は特定の生徒が図書室を利用している状況である。	
5 学校の抱える課題	◇読書の習慣化 ◇図書に興味・関心をもたせるための、生徒を中心とした図書活動が足りない。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇貸出数、利用者数の増加を目指した、図書活動の充実 ◇言語活動の充実を目指す。調べ学習等に対応できるよう、教科担任と連携した選書や授業等での図書館利用を目指す。 ◇生徒を主とした取組（図書日より、読み聞かせ等）の充実を図る。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 年2回朝読書への取組 (2) 各教科の調べ学習や読書への興味・関心をもたせるための選書の工夫をし、利用しやすい図書館を作り、生徒の利用を促す。 (3) 生徒が創る図書だよりの発行。 (4) 生徒を主とした外部活動の実施。 (5) 校内読書感想文コンクールの実施や外部コンクールへの取組（生徒への促し）。	(1) 生徒の貸出数、利用者数の状況確認をする。 (2) リクエストに対する本の積極的な入れ替えをする。 (3) 生徒が中心となる図書活動の遂行をする。 (4) 校内読書感想文コンクールや外部コンクールへの応募・入賞状況	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・年2回朝読書（1回につき8日間）に取り組んだ。 ・各教科と連携し、生徒や教科のリクエストに応え選書を行った。 ・生徒を主とした活動では、2か月に1回発行する図書だよりに図書委員の生徒が書いた記事を掲載した。 ・外部活動として、7月下旬に西児童センターにて図書委員が読み聞かせを行った。 ・読書感想文は全員が提出し、校内では6名の生徒を表彰した。県でも1名の生徒が入選に選ばれた。自主的に外部コンクールに応募する生徒もいた。 	①貸出数と利用者数等による利用状況から改善策を検討したか。 ②効果的な選書の実施ができているか ③生徒が中心となる図書活動の充実を図ったか。 ④コンクールへの応募・入賞状況	A (B) C D A (B) C D A (B) C D A (B) C D
12 成果・課題	○図書だよりに図書委員の生徒が書いた記事を掲載し、教室や掲示版に掲示することにより、図書に対する意識を高めた。 ○外部活動として、西児童センターにて図書委員が読み聞かせを行い、幼児児童に図書に関わる機会を提供できた。 ▲年2回（図書オリエンテーション、読書感想文前）以外は特定の生徒が図書室を利用している状況である。	
13 来年度に向けての改善方策案	・生徒を主とした取組を少しずつであるが取り組んだ。来年度も継続しつつ、外部との連携も交え、図書の習慣化を目標に取り組んでいく。	
12 成果・課題	総合評価 A (B) C D	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の利用法を検討するとよい。 ・7月下旬の図書委員による読み聞かせは、地域の方々にとっても好評でした。今後もぜひ続けてほしい取組みです。
--

3 評価する領域・分野	◇商業教育部	
4 現状の分析	<p>○生徒の94.8%、保護者の89%が「より高度な資格取得の達成に努めている」という回答で、生徒の数値上昇に対して保護者は2%程度下降した。今後も進路選択に向け有効となる資格取得の指導の充実を図るとともに保護者に向けて周知していきたい。</p> <p>▲生徒の91.8%、保護者の70.2%が「本校に入学してから、言葉遣いや礼儀・マナーなど、社会人として必要な資質が向上した」という回答に対して肯定的な回答。今後も言葉遣いや礼儀・マナーなど、社会人として必要な資質が必要な意味を理解させ、向上させていきたい。生徒に対して保護者の評価が著しく低いため、本校の取り組みについて保護者に向けて可視化する。</p>	
5 学校の抱える課題	◇本校が実践している教育内容を、保護者や地域等、外に向けた発信を積極的に実施することで、入学希望者を増加させることに繋がる。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の個性及び能力の伸長 生徒一人一人の個性を生かし、潜在能力を開花させる。また、商業科目の指導を通じて、実社会で活躍できる人材を育成する。 ・ビジネスに対する望ましい心構えと地域貢献 倫理観やビジネスマナーを身に付け、豊かなコミュニケーション能力を育成し様々な活動を通して地域貢献や外部連携を行う。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 授業改善を行い、生徒の興味・関心を喚起することで、自主的に授業に取り組む姿勢を育成する。</p> <p>(2) 外部や地域と連携した授業を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、自ら進んで学習する能力を高め自信を付けさせる。</p>	<p>(1) 研究授業、授業評価により判断する。</p> <p>(2) 生徒の授業評価、授業の取組み状況により判断する。</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業やチームティーチング、少人数授業を実施しており、個々の能力に応じた指導と学習に対する意欲と理解の向上を図る。 ・1月の全商簿記検定前には、特別編成時間割を組み集中的に学習を行う時間とし学習進度に応じてきめ細やかな指導を実践する。 ・外部講師を活用した課題解決型の授業を実施、生徒の主体的な活動を重視する授業を実践する。 	<p>①生徒からの授業評価結果</p> <p>②検定の合格率及び資格の取得</p> <p>③生徒の満足度</p>	<p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>
12 成果・課題	<p>○各科の課題研究で取り組んだ成果物を、課題研究発表会において全校生徒に発表した。</p> <p>○新たなコース「地域マネジメント」が地域に根差した活動をスタートし、岐阜市の魅力を体感することができた。また新たな検定にもチャレンジできた。</p> <p>○税に関する授業や岐阜市ふるさと人材バンクの利用などの授業で外部講師を招聘した授業を実施することができた。</p> <p>○ビジネスプラン作成において、より生徒の探究が深まるよう、昨年度から体制を一新し、地元企業の方のバックアップを得ながら進めることができた。</p> <p>○地元の中学校に、出前授業を実施し中学生との交流することができた。また本校の魅力を発信することができた。</p> <p>○課題研究で、生徒が地域へ外向き意見をいただく機会をもつことができた。地元企業との連携で、新商品の開発ができた。</p> <p>○SDGsの取り組みを継続して3年間、実施している。</p> <p>▲新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染拡大に伴い、個々の授業時間の減少や検定学習機会の減少による意欲の低下から検定試験合格者が減少した。</p> <p>▲商業の基礎基本となる1年次の学習に差ができています。入学する生徒の現状を見極め、よりきめ細やかな指導が必要である。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域マネジメント系の授業の充実を一層図りたい。今年度地域の財産を知ることができたため、来年度は地域課題を発見解決する学習を推進する方策について検討を図り、地元企業と連携した授業を実施する。 		

- ・中学生に向けたPR（出前授業）を実施し、地元中学校からの本校入学希望者を増加させたい。
- ・外部の企業や大学、専門学校から講師を招聘することで、より実践的な社会に即した講演や授業などの学習活動を行う。
- ・就職や大学進学へ対応できるように検定指導と共に、将来を見据えた学習ができるような基盤をつくる。
- ・総合型選抜対策（小論文指導）を実施し国公立大学進学を目指す。
- ・商業教育部として、社会に貢献できる人材育成（挨拶・礼儀・マナーの指導）をする。また本校での生徒の学びの成果について、保護者に向けた周知活動を実施する。
- ・市岐商デパートの運営機構を見直し、持続可能な市岐商デパートを目指したい。

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

- 【意見・要望・評価等】
- ・礼儀（マナー）や資格取得は、姿勢や知識を培うためには重要である。上級生による指導など、生徒自身で学びあう場を設けるとよい。
 - ・言葉遣いやマナー等、社会人として必要な資質を身に付けさせる指導を期待している。

3 評価する領域・分野	◇市岐商デパート	
4 現状の分析	<p>○4年ぶりに対面販売で開催することができた。</p> <p>▲物価の上昇や広報活動の不足で来場者数、売上高が減少傾向である。</p> <p>▲「総合的な探究の時間」での授業内容と「市岐商デパート」の両面での学習の成果や生徒の学習につなげることが困難である。</p> <p>▲担当者が一人である（相談できる人がいない）。そのため、地域と連携した活動では、担当者の負担が大きい。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>○伝統ある行事であるからこそどう舵を切るかを考える必要がある。</p> <p>◆生徒、職員の組織の見直し、仕事内容、職員への周知、目標の方向性が明確ではない。</p> <p>▲市岐商デパートが組織での仕事ではなくなっている。（毎週の指導案の計画、職員への提案、取締役の仕事の計画、生徒への指導、会計、手引書の内容の精選、HP掲載、イベントへの引率、仕入れ売り上げ業者への支払い、業者への応対、マスコミ対応）現状、市岐商デパート担当希望者はいない。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・4年ぶりの市岐商デパート開催（とにかく開催） ・生徒と来客の安全第一優先 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 仮設営の日を設定 (2) 毎時間の授業内容の提案	(1) 実施した (2) 内容の充実	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントが機能し、職員が組織的に取り組むことはできたか。 ・総合的な探究の時間の充実（生徒のアウトプット）をどう方向性を持たせるのか。 ・資料作り（過去の対面販売実施時の資料なし） 	<p>①職員の役割分担を行い組織的に取り組むことができた。</p> <p>②生徒の探究活動を意識させることができた。</p> <p>③対面販売の資料作りができた。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果・課題	<p>○市岐商デパートでは生徒が学習の意味を理解し、生き生きと活動できた。</p> <p>▲学校として「総合的な探究の時間」をどのしていくか方向性が明確でないので担当者が問題を抱えている。</p> <p>▲市岐商生が面接試験などで「総合的な探究の時間」では何を探究していますか？の質問にどう答えさせ、どのように指導していくか。</p>	
13 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> ○担当者を増やす。（組織で仕事を遂行する・責任者をたてる） ○どの組織（教科？分掌？）の中での活動なのかを明確にする。 ○現実的で実行可能な建設的意見を出す。 ○他校を参考にしていく。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月5日

【意見・要望・評価等】

- これまでの蓄積したノウハウをどのように継承していくかが課題である。
- 様々な課題に対して、自主的に生徒自身が探究し問題解決を図る姿勢が大切であることを指導してほしい。
- 市岐商デパートは、本校の大きな柱の一つである。4年ぶりの対面販売は、お客様・生徒ともに充実している姿がみられた。